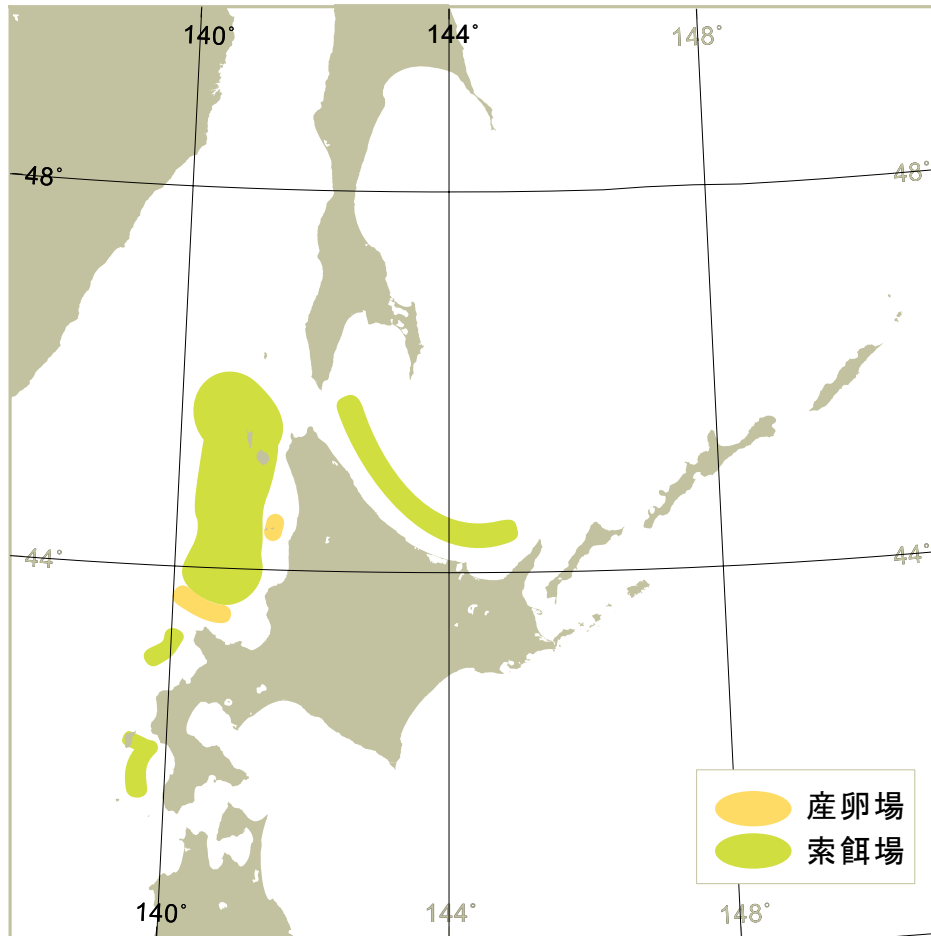




ソウハチ北海道北部系群 令和3年度資源評価結果

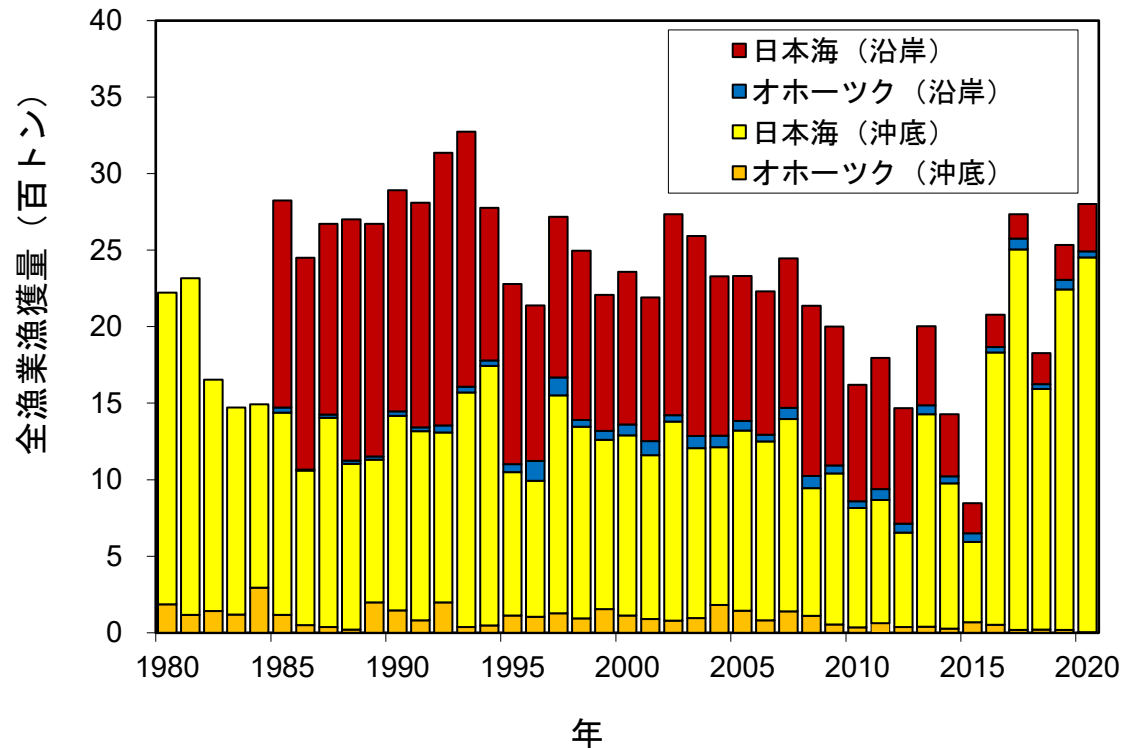
生物学的特性



生物学的特性

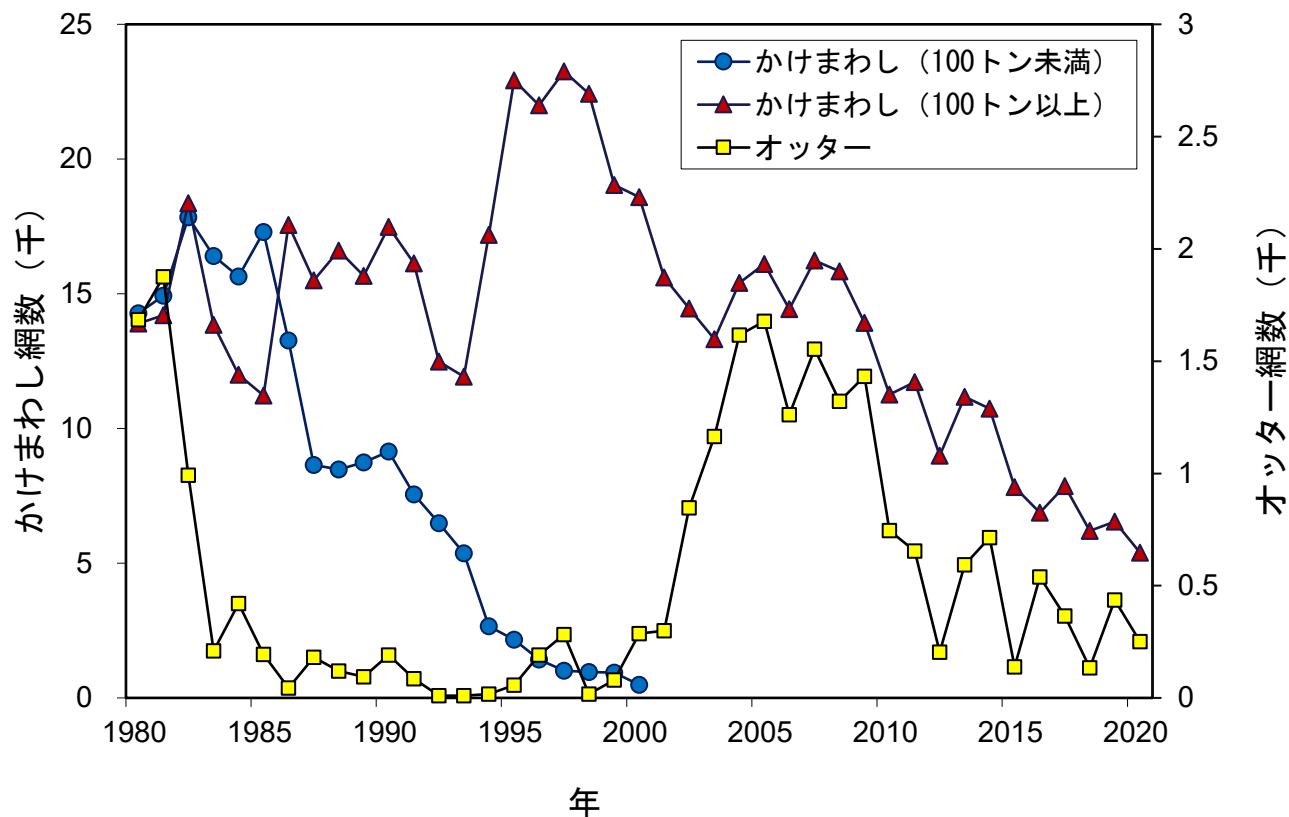
- 寿命: 7歳以上
- 成熟開始年齢: 雄2歳、雌3歳
- 産卵期・産卵場: 5月～9月(盛期は7月)、主に美国～古平沖(水深60～80m)と増毛～留萌沖(水深50～60m)
- 食性: 成魚はイカナゴ、タラ類、幼魚、オキアミ類、クモヒトデ類、多毛類、イカ類、エビ類、二枚貝類、小型魚類
- 捕食者: 海獣類

漁獲の動向①



- 2015年以降は主に9月～翌年4月に沖合底びき網漁業（沖底）で漁獲されている
- 2020年の漁獲量：2,802トン（2019年：2,535トン）
- 日本海における漁獲の割合が高い

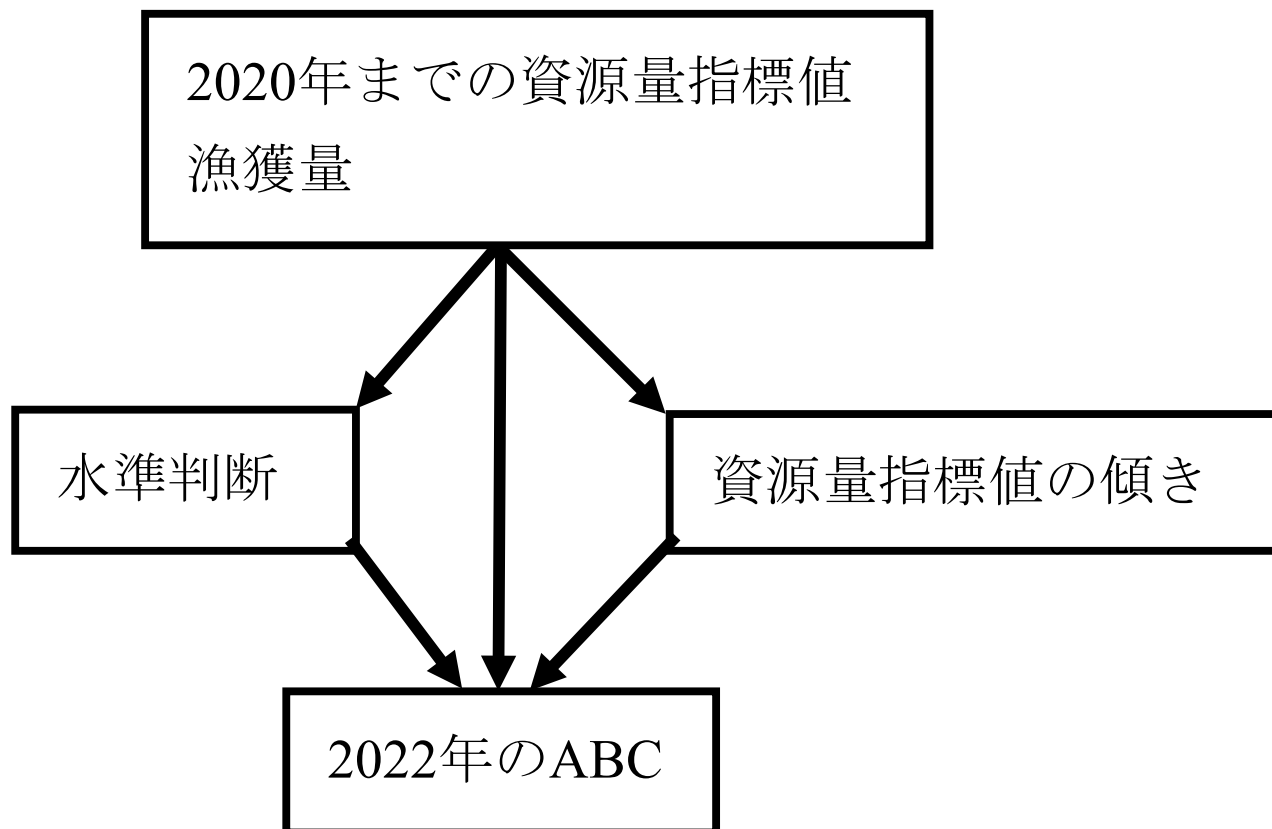
漁獲の動向②



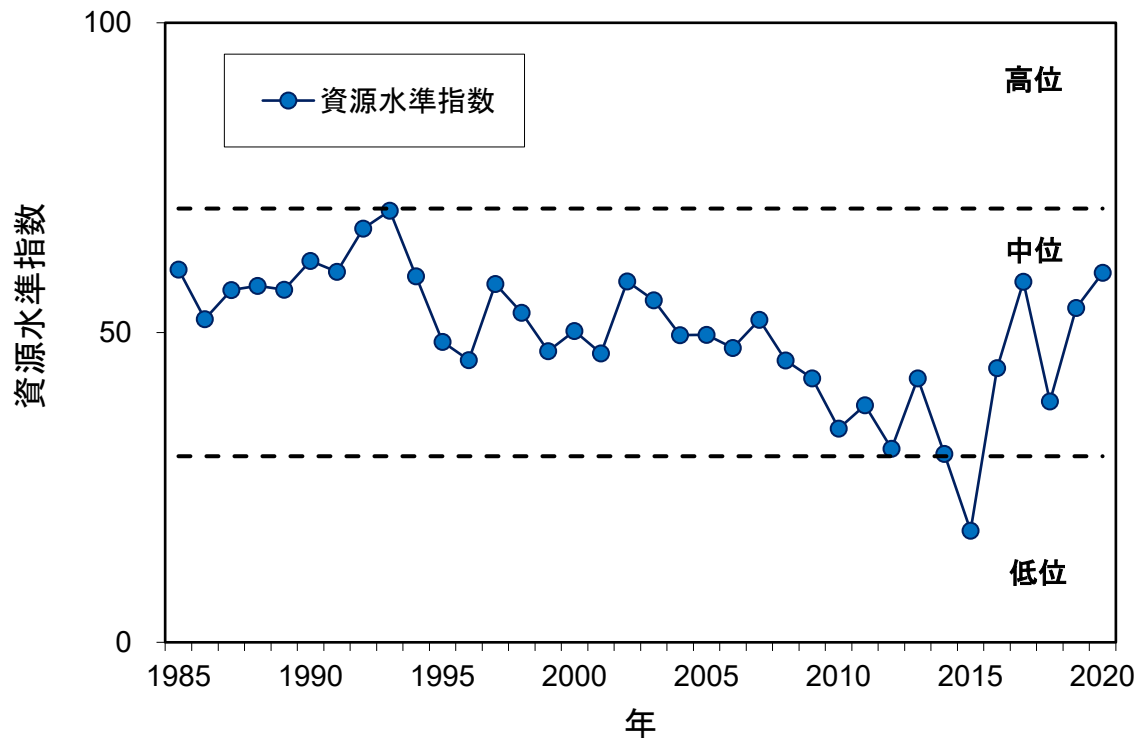
- 現在の漁獲の主体を占める100トン以上かけまわしの有漁網数は1995～1998年に一時的に増加、その後は減少傾向にある

※有漁網数：ソウハチの漁獲があった操業の曳網回数

資源評価の流れ



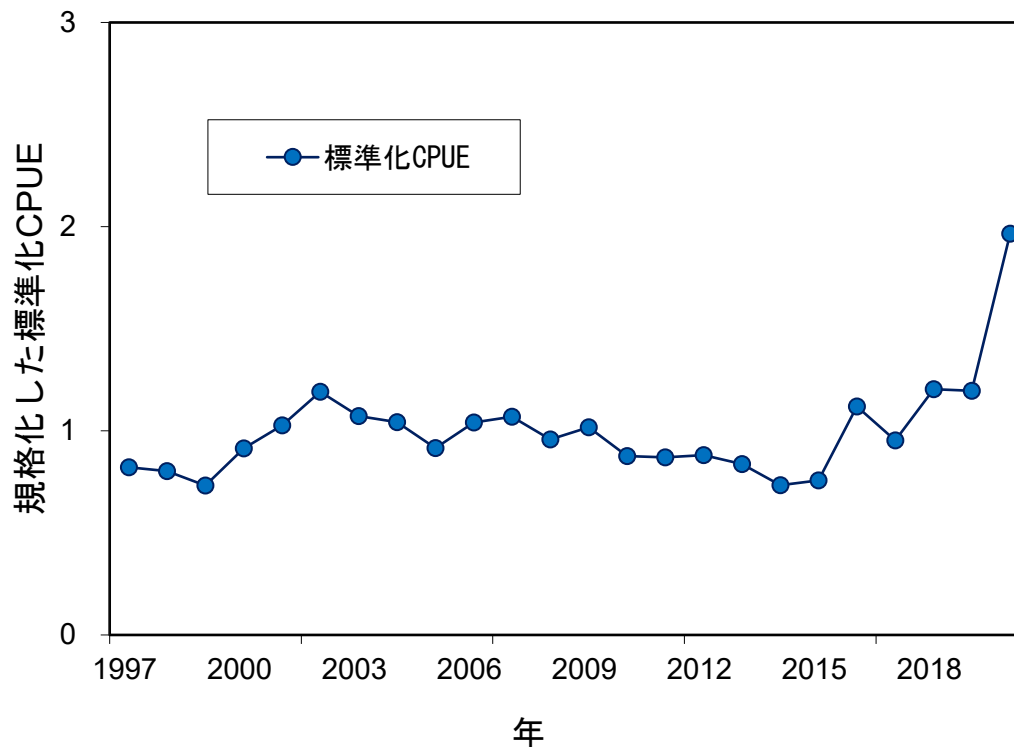
資源の動向①



※水準区分 低位／中位：資源水準指数30、中位／高位：資源水準指数70
(1985年以降の漁獲量の平均値を50とし、各年の漁獲量を資源水準指数として算出)

- 1985年以降の漁獲量の推移から資源水準を判断
- 資源水準：2020年の資源水準指数は60であり「中位」

資源の動向②



- 資源量指標値（沖底かけまわしの標準化CPUE）により動向を判断
- 資源動向：直近5年間の資源量指標値の推移から「増加」

※CPUE：1網当たり漁獲量

※標準化CPUE：CPUEから資源の年変動に対応する部分を抽出した指標値

資源評価のまとめ

- 資源水準は漁獲量を指標値として判断
- 資源動向は沖底かけまわしの標準化CPUEを指標値として判断

2022年ABC

管理基準	Target/Limit	2022年ABC (百トン)	漁獲割合 (%)	F値 (現状のF値からの増減%)
0.9・Cave3-yr・1.26	Target	22	—	—
	Limit	27	—	—

- 0.9: 低位水準の標準値
- Cave3-yr: 2018年～2020年の平均漁獲量(2,388トン)
- 1.26: 資源量指標値の直近3年間の動向から算定される係数